

はじめに

鹿児島県立博物館では、自然や科学を中心とした生涯学習の場として、また、学術文化の拠点として、人々に親しまれる開かれた博物館を目指し、様々な事業を推進し、博物館の一層の充実発展に努力しています。

さて、当館では、小川勇吉氏（当時ロスアンゼルス在住）収集のアロサウルス、カンプトサウルスの恐竜化石2体をはじめ北アメリカ産の三葉虫、アンモナイト等の化石434点が、昭和40年、本県出身の八島太郎画伯の尽力により、県に寄贈され、これを昭和41年以来展示・公開しています。

このアロサウルス、カンプトサウルスは、我が国に恐竜化石の実物が入ってきた中では、国立科学博物館に次いで2番目のものであり、また、現在、全国的にも数少ない恐竜化石の極めて貴重な標本です。

また、平成3年には、小牧勇蔵氏の尽力により、大野透太郎氏（和歌山県在住）収集のボリビア産化石221点が県に寄贈され、本年、これを常設展示することとしました。

この図録は、これら当館に収蔵・展示している南北アメリカ大陸産の化石をまとめたものです。

古生代から新生代までの6億年という長い時間の中で、確実に生きていたヒーローたちの生物の進化や生命の神秘、そして、自然の仕組みについて理解を深めていただければ幸いです。併せて、当館へ来館いただき化石等展示資料を御覧くださいよう期待申し上げます。

平成5年3月

鹿児島県立博物館長

立園 多賀生

目 次

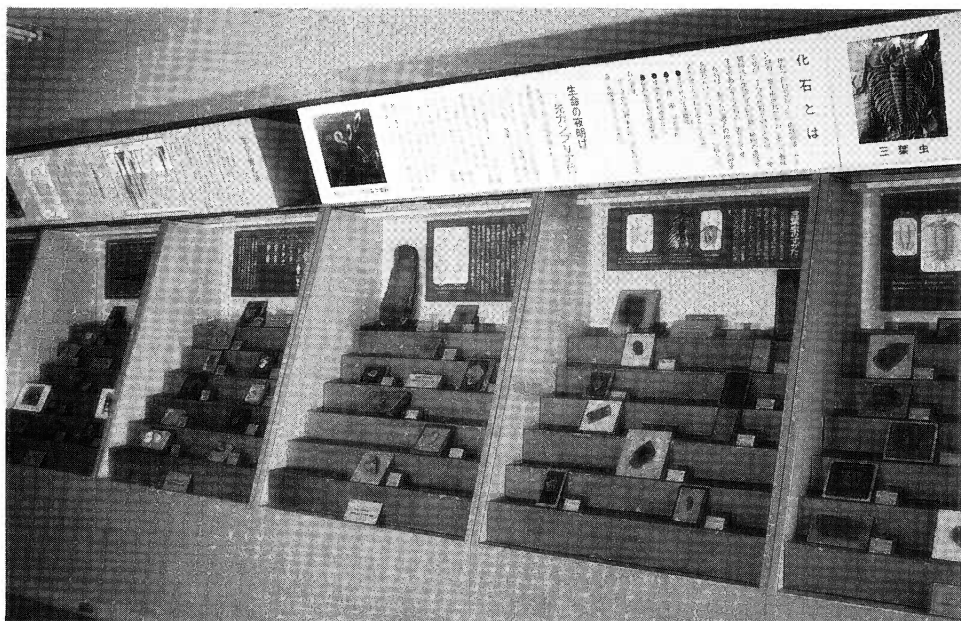
1	地質時代の区分と生物の盛衰	4
2	北アメリカ産の化石（小川勇吉氏収集化石）	8
(1)	三葉虫の化石	8
(2)	ウミユリの化石	13
(3)	サンゴの化石	14
(4)	腕足類の化石	16
(5)	アンモナイトの化石	17
(6)	ハチュウ類の化石	27
(7)	米国サウスダコダ州産の脊椎動物化石	32
	（カメ類・奇蹄類・偶蹄類など）	
(8)	貝類の化石	39
(9)	棘皮動物の化石	43
(10)	痕跡化石	47
(11)	魚類の化石	49
(12)	哺乳類の化石	51
(13)	その他の化石	55
3	南アメリカ（ボリビア）産の化石（大野透太郎氏収集化石）	56
(1)	オルドビス紀の化石	58
(2)	デボン紀の化石	59
(3)	二畳紀の化石	66
4	鹿児島県立博物館収蔵南北アメリカ産化石リスト	
(1)	北アメリカ産化石（小川勇吉氏収集）	68
(2)	南アメリカ産化石（大野透太郎氏収集）	78
	主要参考文献	80

表紙説明

左：カンプトサウルス，右：アロサウルス
（小川勇吉氏寄贈）
背景は中生代の自然景観の大壁画
（八島太郎画伯の作品）

裏表紙説明

左上：三葉虫，右下：アンモナイト



北アメリカ産化石展示室



南アメリカ産化石展示室

この冊子で紹介してある化石類は、県立博物館別館（県文化センター4階）に展示してあります。

主要参考文献

- | | | |
|----------|----------------|---------|
| 浅野清他 | 古生物学（I～IV） | 朝倉書店 |
| 井尻正二 | 古生物学汎論（上・下） | 築地書館 |
| 井尻正二他 | 恐竜の世界をたずねて | 築地書館 |
| 井尻正二他 | 恐竜の足あと | 築地書館 |
| 小島郁生 | 恐竜はなぜ滅んだか | 岩波書店 |
| 木村達明他 | 化石の手帳 | 講談社 |
| 教育社編 | 恐竜年代記 | 教育社 |
| 小林貞一他 | 古生物学（上・下） | 朝倉書店 |
| コルバート | 脊椎動物の進化（上・下） | 築地書館 |
| 鹿間時夫 | 日本化石図譜 | 朝倉書店 |
| 柴谷篤弘他 | 進化③ 古生物学からみた進化 | 東京大学出版会 |
| 図説地学編委編 | 図説地学 | 共立出版 |
| 地学団体研究会編 | 地層と化石 | 東海大学出版会 |
| 日本古生物学会編 | 化石の科学 | 朝倉書店 |
| 平野弘道 | 恐竜はなぜ滅んだか | 講談社 |
| 藤山家徳他 | 学生版日本古生物図鑑 | 北隆社 |
| ホールステッド | 太古の世界を探る | 東京書籍 |
| 益富壽之助他 | 原色化石図鑑 | 保育社 |
| 森下晶編 | 日本標準化石図譜 | 朝倉書店 |
| R・コウエン | 生命の歴史 | サイエンス社 |

その他 多数の文献等を参考にしました。

鹿児島県立博物館収蔵

南北アメリカ大陸産化石図録

発行年月日：平成5年（1993年）3月31日

編集・発行：鹿児島県立博物館

〒892 鹿児島市城山町1-1

TEL 0992-23-6050

FAX 0992-23-6080

印刷所：測上印刷株式会社

〒892 鹿児島市樋之口町6-6